



「ピノッキオ」創業50周年に寄せて

2012. 11. 23

1962年創業の当店では、本年5月31日の創業記念日から年末まで、記念事業を展開しています。その間、おなじみのお客さまや、周年を機会に久々ご来店いただいた方々になつかしい記憶をたどっていただき、お話をお伺いしています。これから数回にわたりここにご紹介いたしますが、まだまだ、こぼれている話や未解明なこともありますので、お聞かせいただければ幸いです。

(逢坂 御堂)

**創業50周年記念、思い出をたどる(1)**

▽創業は三宮・阪急電車山側ー1962年(昭和37年)

現在の獅子マークのエンブレムは創業以来変わらず、ライオンの上部には、創業年「1962」が付いている。現「ピノッキオ」に入ると正面に見えるベルの形についているマークはよく磨かれているが、その上部には数字が見られない。いつのまにかなくなったままだったが、そのオリジナルが、創業時からのお客さまのご自宅に保存されていることが今回分かった。これについては後の回で触れることにする。

「ピノッキオレストラン」はどこかで創業した後、生田区(現中央区)北長狭通二丁目12 星川ビル(5階建)の地階に開業した。1968年(昭和43年)6月刊の住宅地図には「ピッツアハウスピノッキオ(阿部)」とあり、これが初代オーナーと思われる。

創業が星川ビルでなかったと思われるのは、住宅地図の1964年(39年)9月版と1966年(41年)版には店名が見られず、しかもこのビルは4階建てだったことから。

一方、1965年(40年)10月10日現在の電話帳には、「ピノッキオレストラン 北長狭二丁目12」があり、「12」街区にあったことは確かだが、住宅地図上では確認できない。いずれにしても、創業地は現店舗から真つすぐ南へ降りた阪急電車山側周辺だったようだ。今回、星川ビルB1だったことを思い出していただいたお客さまは数人おられた。現在そこは更地になっている。

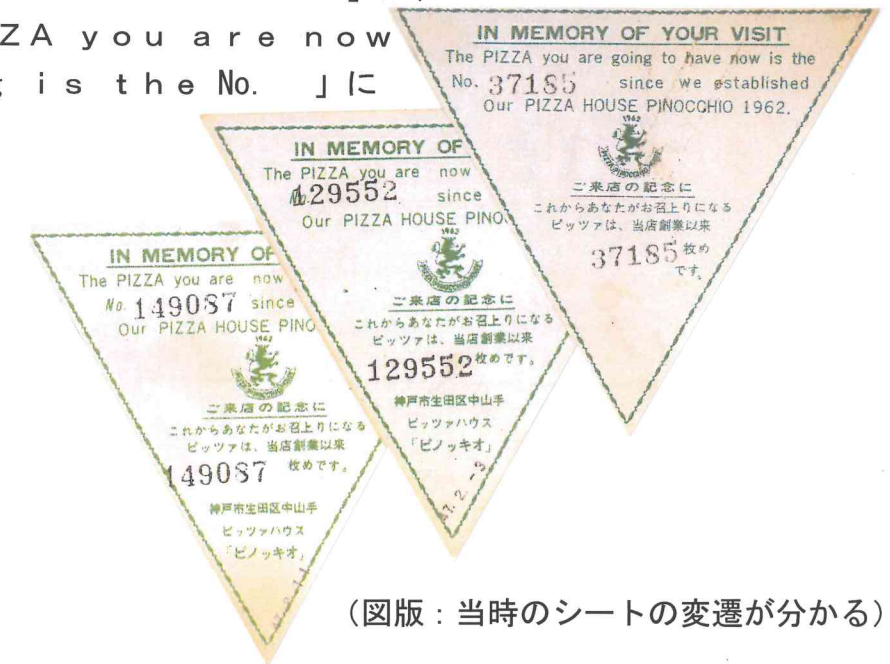
星川ビルのオーナーは1階の「化粧品タマヤ(星川)」。1964年版(39年9月)ではタマヤ1社のみで、その後星川ビルが建つ。1965・67年版の所蔵がなくこの間の確認ができない。

▽現「ピノッキオ」を開店ー1965年(昭和40年)

星川ビルB1の店は「ピッツアハウスピノッキオ」へ名称変更した。一方、「ピノッキオレストラン」は電話番号33-3545を持って、新築された5階建て

の太洋ビル1階に「レストランピノッキオ」(中山手通二丁目101=現店舗)を開店した。ピザ1枚1枚には、創業以来のシリアルナンバーを打った三角形のシートが添えられているが、現在店内に展示の「37185番」は、創業から3年目の現店舗でのもので、いまのところ、最古のシートだ。ただ、このシートの下部には、店名・住所の記載がなく、これが意味することはわからない。移転後しばらくは2店舗で共用されていたのかも知れない。

また、1972年のシートの「The PIZZA you are going to have now is the No.」が、「The PIZZA you are now enjoying is the No.」に変更されている。



(図版：当時のシートの変遷が分かる)

その頃タウン誌「神戸っ子」8月号誌上「神戸うまいもの地図」には、三宮・元町周辺にはキングスアームス、ベル、コウベステーキ、バラライカ、カルメン、栄寿司、武蔵、もん、三福(すし)、みその(ステーキ)、ハナワグリル、コーベガーデン、金剛山、おか川、パウリスタ、竹葉亭、にしむら、エスカルゴ、ユーハイムコンフェクト、レストランハイウェイ(昭和7年創業、谷崎潤一郎が名付け親)などなど。東隣には、広大な敷地に神戸YMCAが(現在は生田警察署)、南側にはホテル宝山、ホテル羽衣、北側には大韓民国総領事館(現行)。北側のNHK神戸放送会館は、まだ見られず(1971年5月初代開局)。

当時の神戸では、ピザを出す店はまだ珍しく、当時のメニューは残っていないが、お客さまによると、コーラとピザで1000円ほどだったようだ。コーヒー60円から70円、ビール(大ビン売価)120円からすると、二十歳そこそこの学生には、贅沢なデートコースだったという。それだけに、彼女をここに連れてくるというのが念願だったという人もいたようだ。(続く)